喜多 ③

新しい発見と驚きを秘めて、
自然界はいつも輝きに満ちている。

The Roman
of Kitakata

Nature 大地の息吹き

自然は人間にとってつねに厳しさと優しさを併せ持つ父のような存在だ。この相反する側面を持つ自然界への畏怖と尊厳の念は、喜多方に生きる人々の誰もが身を持って深く実感してきたことである。

豪雪に見舞われるこの地方では、毎年の根雪の雪下ろしや雪かきは一家総出で行われる過重な労働である。喜多方の人々は昔から、この厳しい冬の生活に耐え、それを宿命のように受入れてきた。水がぬるみ、雪どけがはじまる三月初旬まで、人々は雪下ろしや雪かきに追われる毎日が続くのである。

厳しい風土の中で生きてきた人々はまた、恵み豊かな自然の恩恵に対する感謝の念を忘れない。春に芽吹くさまざまな山菜の数々、良質の喜多方米を育んでやまない豊饒な大地。秋には、色鮮やかな果実とともに、ナメコ、シイタケ、シメジなど豊富な山の幸が届く。

自然の大きな懐にすっぽりと抱かれ、自然と共に生活を営む街を、喜多方の人々はだれよりもよく知っていると感じる。恵み豊かな自然を壊すことなく、自然と人間との親密な共存関係を守ることこそ、私たちにとってより今日的なテーマだと思えてくる。